

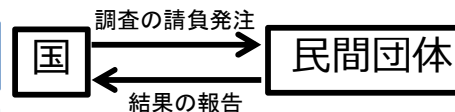


## 背景・目的

- 瀬戸内海等の閉鎖性海域では、水質は全体として改善傾向であるが、一部海域では依然として赤潮や貧酸素水塊等の問題が発生するなど、湾灘ごとの課題に応じた施策が求められている。
- 水質の保全に加え、栄養塩類の適切な管理、生物生息場として重要な藻場・干潟等の保全・再生、気候変動による影響把握等の重要性が指摘されている。
- 平成27年の『瀬戸内海環境保全特別措置法』の改正及び法に基づく『瀬戸内海環境保全基本計画』の変更により、「豊かな海」を目指した施策を推進していくこととされた。また、改正法附則において、栄養塩類と水産資源の関係について調査研究を行い管理の在り方について検討を行うことが盛り込まれた。

新たな課題に対応した調査・検討が必要！

## 事業スキーム



## 事業概要

1. 水環境の分析・評価、保全・管理方策の検討
2. 藻場・干潟分布状況調査等
3. 気候変動による影響評価及び適応策の検討等

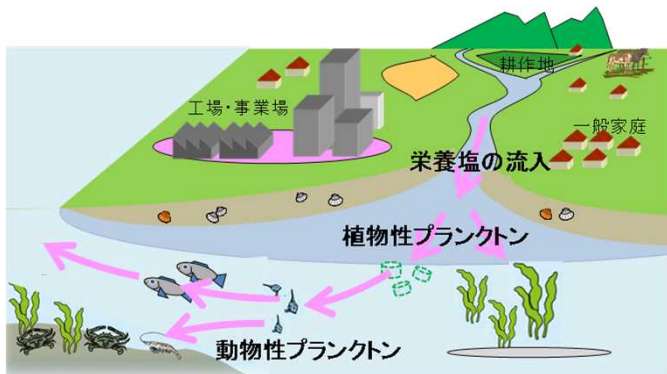
## 期待される効果

瀬戸内海等の閉鎖性海域を対象として、科学的な知見に基づき各種調査・検討等を行い、適切な海域の管理方策の在り方を取りまとめるとともに、「豊かな海」に向けた各種取組を促進する。

## 事業目的・概要等

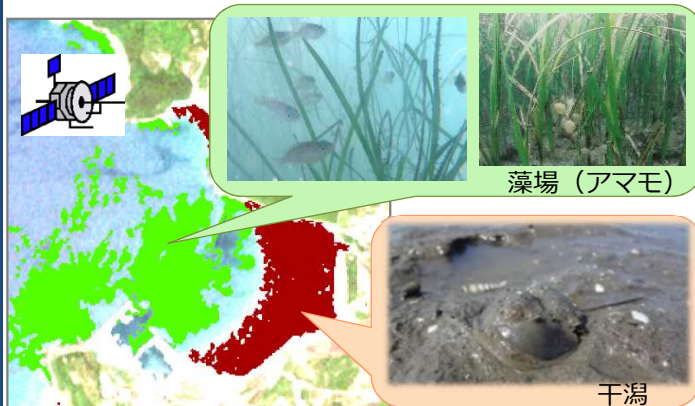
## イメージ

### 1. 水環境の分析・評価、保全・管理方策の検討



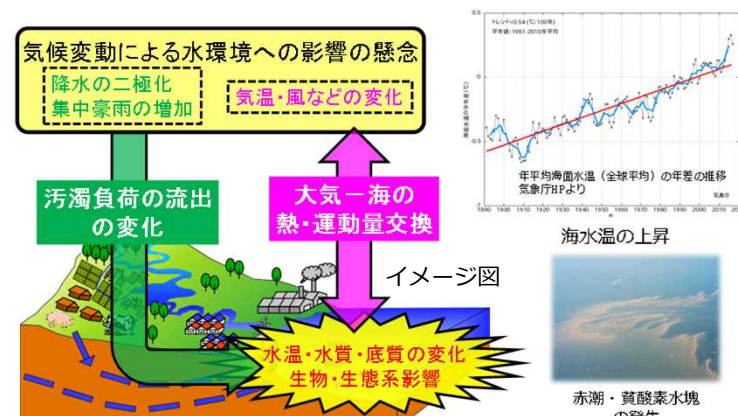
- ・ 湾・灘ごとの水環境の変化状況や底質・底生生物調査の結果等について分析・評価
- ・ **水環境と生物多様性・生物生産性の関係に係る検討**

### 2. 藻場・干潟分布状況調査等



- ・ 水質浄化機能を有し、生物生息場として重要な藻場・干潟の分布を、衛星画像を用いた解析手法により調査

### 3. 気候変動による影響把握及び適応策の検討等



- ・ 水質（栄養塩類等）や生物多様性・生物生産性に対する**気候変動の影響評価**
- ・ 影響を踏まえた**適応策の検討**

「豊かな海」の観点から、海域ごとの実情に応じた海域管理の実現